



長野県難聴児支援センター ニュースレター

平成30年度
第3号

長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科



すっかり春めいてきましたね。先日訪問した保育園で、子どもたちの会話に耳を傾けてみると『季節』の話題で盛り上がっていました。「冬の次は何でしょう?」「はるー!」「ブブー!花粉の季節です」「『花粉』は季節の名前じゃないから、違うよ」「だって、『花粉の季節がやってきました』って、テレビで言ってたもん」…。子どもたちはこんなやりとりをしながら『季節』のイメージを作っていくんだなあと感じました。季節の変わり目は、様々な自然の変化に出会うことができる時期。「春っばい」「冬っばい」ものが混在しているからこそ感じられる今の『季節』。「4月からは春」…とは割り切れない『季節』を感じながら過ごしていきたいですね。

平成29年度 「新生児聴覚検査」のまとめ

県内の新生児聴覚スクリーニング機関及び2次検査機関より、検査実施数を報告いただいています。平成29年度の長野県「新生児聴覚検査の実績」をご報告いたします。

対象者数	16,005人
非検査数	194人
新スク検査数	15,811人
パス件数	15,717人
2次検査数	94人
確定診断数	18人

※平成29年度の長野県出生数は、14,902人
(2018年6月 県保健福祉部報告)

検査報告数 16,005人とおよそ1,000人の乖離がありますが、里帰り出産によると考えられます。

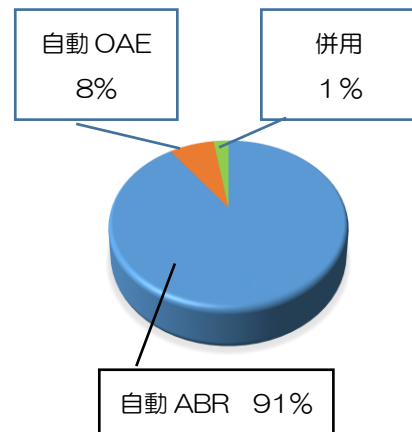
※報告率は、98% (41施設中40施設)
※非検査数は、検査を希望されなかった方の数

※新生児聴覚スクリーニング検査実施率
 $15,811 \text{ 人} \div 16,005 \text{ 人} = 0.987 \dots$ 99%

※新生児聴覚スクリーニングからの2次検査の割合
 $94 \text{ 人} \div 15,811 \text{ 人} = 0.0059 \dots$ 0.6%

※難聴確定診断の割合
 $18 \text{ 人} \div 16,005 \text{ 人} = 0.0011 \dots$ 0.1%

従来統計通り、
1000人に1人の割合で、難聴児が発見されています



新生児聴覚スクリーニング検査方法

新スク実施率 100%を目指して

新生児聴覚スクリーニング検査を実施している産科・産院等にご挨拶に伺いながら、実施の状況についてお聞きしています。「希望しない」と意思表示された保護者の方にも、再度意義をお伝えくださり、実施につながった例など、お聞きすることができました。しかし、「うちには難聴の親族はいないので」「第1子のときに検査したけれど、何もなかったの」等の理由から、検査を希望されない保護者の方もまだいらっしゃる現状もお聞きします。そこで、保護者の方に正しく知っていただくためのチラシを作成し、ご挨拶に伺った際に持参し、配布のお願いをしています。

新生児聴覚スクリーニングは 99%の方が受けている検査です

～きこえの検査をうけましょう！ きく→まねる→ことばを話す～

「きく」ことのつながり

従来、赤ちゃんがきこえているかどうかは、生活の中では気づかれず、2～3歳になっても話し出さないことで発見されていました。しかし、0～3歳までのきこえがことばの発達に大切であるため、2002年頃から「新生児聴覚スクリーニング」ですぐに赤ちゃんのきこえを検査するようになりました。

早く発見(0歳から)されることで、早期の対応が行われます。早期治療をおこなうことで、ことばの発達の遅れを防ぐことができます。

赤ちゃんの聴力は、妊娠28週頃からきこえはじめ、生後3か月頃から聞きなれた人の声の違いがわかり、生後6か月頃から名前で振り向くなど意味がわかり、生後10か月以降は声をまねるようになります。

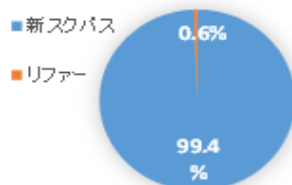


新生児聴覚スクリーニングとは

新生児聴覚スクリーニングは、出産後、退院までに行います。赤ちゃんが眠っている間に機械で音を聞かせて脳波を調べます。数分間でできる検査で、赤ちゃんは何の痛みも感じませんし、副作用もありません。



千人に1人「きこえにくさ」があります



先天性難聴の赤ちゃんは、1,000人に1～2人とされています。先天性代謝異常のフェニルケトン尿症の赤ちゃんが60,000人に1人と比べても、少ない病気ではありません。

また、この検査で「パス」でも、稀にあとから難聴になることがありますので、きこえやことばについて関心を持ち、心配なことがありましたら医師や保健師にご相談ください。

長野県難聴児支援センターは、保護者支援の拠点として設立されました。

※電話や来所のほか、関係機関への同伴訪問やご自宅へのお出張相談も致します



両親ともに難聴がなく、兄弟も新スク検査でパスだったので、今度の赤ちゃんは検査を受けなくてもいいですか？



生まれてくる全ての赤ちゃんに新生児聴覚スクリーニング検査をお薦めしています。

難聴の主な原因は

- ・遺伝子によるもの
- ・先天性のウイルス感染
- ・原因不明のもの

とされています。遺伝子の場合でもご家族に難聴の方がいらっしゃらない赤ちゃんが難聴であることが多いため検査をお薦めします。結果、「きこえ」に不安をたずずに育児することにもつながります。



リファア（要再検査）と言われたら、「難聴」ということですか？再検査で「パス」することもありますか？



「再検査」という結果は、すぐに耳が聞こえていないと判断できるものではありません。

「今回の検査では『ささやき声程度』の音に反応しなかった」ということで、時間を置いてさらに詳しく調べましょうという意味になります。

また、再検査で「パス」と言われる方もいます。最初のスクリーニングでは1000人のうち5～6人の赤ちゃんが再検査を勧められますが、実際に難聴の治療が必要な赤ちゃんは、1000人に1～2人とされています。（その後の中耳炎やおたふくなどきこえが変化する場合もあります）



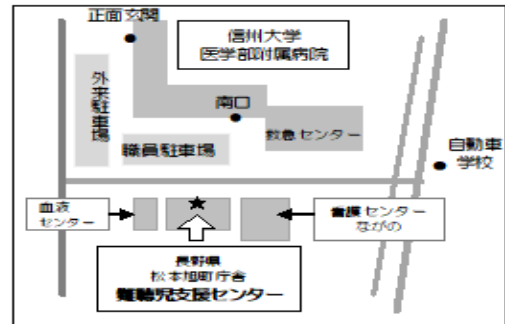
まだ難聴の診断が確定していないきこえに何となく不安がある、という時でも相談できますか？



はい。お父さんお母さんの悩みや戸惑いが赤ちゃんに伝わるのが一番心配です。

- ・確定診断される前
- ・片耳、軽度難聴
- ・もう少し「難聴」について知りたい
- ・両親そろって話が聞きたい
- ・診断を聞くときに付き添って欲しい 等

なんでもお気軽にご相談下さい。子どものきこえとことばについて一緒に考えるのが当センターの役割です。



お気軽にご相談ください

<申込み・お問い合わせは>

**長野県難聴児支援センター
療育支援員**

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

県内各産科施設より、保護者の方にお配りいただき、足りなくなったところへ追加送付しております。必要な枚数など、下記センターまでご連絡ください。

長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

療育支援員：山岡 美穂

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

